

部じゃないかというぐらい走らされた。グラウンドの外回りを障害物競走みたい15周ぐらい、約8kmを毎日走っていました。思い出としては、コートライン引き直します。髭野さんが「このコート大きくないか?」と言われて、1週間後に「今日はテニスやらない、お前らコートを作り直すんだ」と言っただけから測量しました。

菊地……やっぱり違っていたんですか?

廣内……ボール3個か4個分違っていた。直してすぐに練習できたのですが、サーブプレシジョンをやったら誰もサーブが入らなくなった(笑)。

髭野……終わったら、「女子の方もやってください」というんだ。2面張り終わって全天候のコートと比較すると長さが違う。俺が間違っているから全天候の方を測ってみた。そしたら尺の外側にラインを引いていた。それで平気でやっている。「体操の先生に言っておけ」って言ったらしばらくして、削って直したみたい。

中野……最後に一番の若手の秋山さん。

秋山……62期の秋山です。中学生の時文化祭でポスターを見て入部を決めました。入学後、誰も勧誘していませんでした。当時顧問だった宮



秋山 茜(高62)

田先生に聞くと「ここに電話してみろ」と電話番号を渡され、電話をしたら髭野さんが。次の日からコートに来てくださいました。

中野……先輩たちはいなかったの?

秋山……そうですね、同期の朝倉と2人だけでした。翌年、先輩が10人入り、時田先生がコーチを引き受けてくれた時は奇跡かと思いました。

中野……一時は消滅という危機があった。

秋山……朝倉が私の名前順のすぐ後ろにいなかったら今はないですね(笑)。

髭野……あいつもよく頑張ったものな。それ以来クラブは続いているから、もう現役指導は秋山に任せても大丈夫だろう(笑)。

亀山……秋山が卒業して何年になる?

秋山……4年です。現在、部員は1・2年生合わせて16人になりました。合宿は山中湖でやっています。今年は65期2人とともに参加してきます。

半世紀近く続く紫芳庭球会

中野……後半はOB組織の紫芳庭球会創立のいきさつについて田坂さんからお願います。

田坂……昭和40年に家業を継ぐために家にいた永井と、学生というフリーな立場の浅井の二人がメインになって11期が応援団で創ったというのが実情です。永井は我々の代の部長で残念ながら39歳で早逝してしまっただけで、紫芳庭球会が都の団体戦はC級から出場し、秋には優勝してBに昇格した。

亀山……この時のA級は8チーム、Bが16チーム。

Cというのは出来たばかりで60数チームいた。BとCとは何回か行き来しましたが、Cでは結構活躍しましたよ。その後、1部、2部という仕組みになった。

中野……昭和40年から50年近く続いている。歴史がありますね。

髭野……高校のOB会で生き残っているのはうちだけだ。

中野……ところで今、何部ですか?

廣内……落ちたばかりで10部(12部中)と苦戦しています。

菊地……ちなみに女子は現在5部(9部中)で頑張っていますがやはり苦戦しています。



紫芳庭球会発足当時のメンバー 1965年C級優勝